

トワーム通信第62号

医療法人社団松弘会
介護老人保健施設トワーム熊谷
埼玉県熊谷市小曾根337-1
TEL: 048-599-3377

2025年8月発行

百寿のお祝い



2025年2人目の100歳のお祝いは、7月7日七夕にお誕生日を迎えられたS様。当日はご家族もお祝いの会に出席してくださり、盛大に行われました。桃色のちゃんちゃんこを身にまとい、スタッフのアーチを潜って登場されました。この日はあんみつ姫の大正琴の演奏に合わせて介護スタッフがマイクを握り歌を披露し初めてのコラボ演奏はとても気持ち良く、皆様からも好評でした!! S様も終始感動され目頭を押さえながら、「涙も出ないよ」と…。(あれれ??笑)そんなおちゃめなS様。リハビリスタッフが愛情込めて作ったくす玉を割り、お客様・ご家族・スタッフに「HAPPY BIRTHDAY」を歌ってもらい、しっかりと皆様の前で挨拶もしていただきました。100歳のお誕生日を迎えられたということは、1世紀分生きてこられたということ。S様が歩んで来られた100年の歴史に敬意を表し、これからも元気に毎日を過ごしていただけるよう、サポートさせていただきたいと思っております。S様、本当におめでとございます。



デイケアの夏

デイケアでは、夏の訪れを感じていただけるよう、フロア全体を色とりどりの朝顔で彩りました。天井から吊るされた朝顔は青や紫、赤など鮮やかな色合いで、風にゆらゆらと揺れる姿が涼しげです。壁面には細く伸びたツルが再現されその間に咲いたたくさんの朝顔がとてもきれい。掲示板にも、利用者様と一緒に作った折り紙の朝顔が飾られ、見る人の目を楽しませてくれます。製作中は「どうやって作るの?」「難しいねえ。」など手先を動かし、「昔、家の庭にも咲いていたなあ」「この色が好き」と会話ははずみ、懐かしさや季節の話題で笑顔が広がりました。一つ一つ丁寧に折られた花々には、皆さんの温かい思いが込められています。夏の日差しの中でも、トワームデイフロアに広がるやさしい色合いの朝顔たちが、涼と癒しを届けてくれています。



トワーム熊谷 栄養課便り



おしながき
サラダ寿司
絹揚げの煮物
大根の和え物
味噌汁

ツナ、卵、かにかま、
胡瓜を彩りよく
盛り付けました。



レインボーコンサート

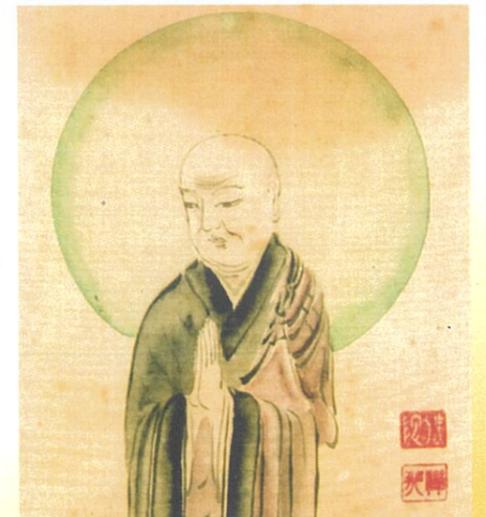
7月6日日曜日、深谷市南公民館で開催されたレインボーコンサートに、今年もあんみつ姫参加してまいりました。今年「タッチ」と「故郷(合奏曲)」を披露して来ましたが、演奏曲が直前で変更になり、いつものお稽古以外にも、昼休みにコンソ行方練習(笑)も可能な限り行って仕上げてきました。あんみつ姫を結成した当初は「キラキラ星」が弾けただけで満足していましたが、今では自分達が弾いてみたい曲にチャレンジしてみたり、各パートで旋律が違う合奏曲まで弾けるようになりました。今年が3回目の参加となりますが、15グループが参加しており、多くの演者さん達の前で演奏するのは毎回本当に緊張しますが、「故郷」は皆さんと一緒に歌って下さり、とても気持ち良く演奏することができました。来年はレインボーコンサート、記念すべき10回目となるそうで、少し大きなホールで開催予定で、「あんみつ姫もぜひ!」とお声がかかっており、すでにどきどきしております。



施設長 矢島の独り言

右は往生礼賛の中の日没無常偈です。往生礼賛を著したのは唐で活躍した善導大師(AD613-681)です。往生礼賛は般若心経などの経典と共に平安時代の最澄や空海によって日本に伝えられました。その後、源信(恵心僧都)や法然、親鸞といった日本の浄土教の祖師たちに大きな影響を与えました。日没無常偈を書き下し文にすると次のようになります。「人間あわたくし日々の暮らしを営み、年月の日夜に去ることを覚らない。灯(ともしび)が風中でいつ消えるか期し難いのだ。せわしく六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上)を輪廻して定まるところがない。未だ解脱して苦しみの世界を出ることが出来ないでいる。どうして驚き恐れることなく落ちていられるのか。おののけ健康で力がある時に、自らつとめ勤んで常住を求めよ。」「常住」は「無常」の対義語で「変化や消滅をせずに、永遠に存在し続けること」すなわち「永遠の生命と常恒の平和」(涅槃)を得ることです。私は日没無常偈が好きで、風呂などで良く口づかみます。読み方は浄土宗、浄土真宗など宗派によって微妙に異なりますが、自己流で右のふりがなのように読んでいます。現代人の多くは人は死ねば脳髓に依存した意識はなくなって虚無になると考えています。しかし、仏教では死んだら、阿頼耶識(あらやしき)に帰ると教えています。阿頼耶識は意識されない心の領域で、俗に潜在意識、無意識と呼ばれます。阿頼耶識は、死後も存続し、輪廻転生を繰り返す根源的な生命のことです。肉体は滅びても、阿頼耶識は過去・現在・未来にわたって存在し、その人の一切の業(行為)を記録し、次の生の種子(しゅうじ)となります。そのため阿頼耶識は蔵識とも呼ばれます。私は子どもの頃高い石垣から落ちて九死に一生を得たとき、一瞬のうちに生まれてからそれまでに経験したことすべてが廻り灯籠のように目の前に現れた経験があります。普段意識しない阿頼耶識に蔵されていた記憶が瞬間に現れたのです。仏教で言う意識(第六識)は五感(眼耳鼻舌身:色声香味触)に付随した情報(前五識、五俱意識)を受け取り分別判断や思考を行います。第七識(末那識)は、自我意識や我執の心で、自己と他者を区別して常に「私」という意識を持ちます。心理学で言う自我意識に近い概念です。阿頼耶識(第八識)は私共の心の相対的根底で、肉体の有無に関わらず存在しています。絶対的根底は如来の四大智慧(大円鏡智、平等性智、妙觀察智、成所作智)に依存した唯一の心(法身大我、第九識、阿摩羅識)で、法身大我に目覚めることを常住(涅槃)を得た、成仏したといえます。日没無常偈は、はやく大我に目覚めて成仏せよと言っているのです。

人間忽忽	當衆務	不覺年命	日夜去
如灯風中	滅難期	忙忙六道	無定趣
未得解脱	出苦海	云何安然	不驚懼
各聞強健	有力時	自策自勵	求常住



善導大師像 山崎弁栄上人 筆(落款は佛陀禪那)

デイケアおやつレク ～心太と玉蜀黍～

6月末のことになりますが、デイケアのおやつレクで心太と玉蜀黍を皆さんと一緒に頂きました!! 正直に申し上げますと心太(ところてん)、玉蜀黍(とうもろこし)という漢字であるという事を初めて知りました(笑)。とうもろこしは某リハビリスタッフゴリ押し、深谷産の「味来」をチョイス!! 「味来」はスイートコーンに分類され、粒の色は濃くて黄色い黄粒種のゴールデンコーンに該当するそうです。糖度は高く、平均糖度は12度以上と言われています。食べると食感は柔らかく、甘くてみずみずしい味がします。皮は柔らかくて、食べ進めると果物のようにあり、別名「ミラクルスイートコーン」とも言われているようです。ところてんは奈良時代にはすでに食べられており、当時は天草を煮溶かして固めただけのシンプルな食べ方だったと言われています。その後、平安時代には、酢や醤油をかけて食べる食べ方が定着し、江戸時代には現在と同様の食べ方が広まりました。近年ではダイエット食として注目されている食品です。ところてんの食べ方として、主に関東地方で食される三杯酢や酢醤油にカラシを少し加えて、青のりや胡麻をトッピングするものが日本全国としては主流なようです。対する関西地方では黒蜜で味付けする食べ方あり、これは関西では昔から「葛きり」が好まれており、葛きりに食感の近いところてんも葛きり同様に黒蜜で食べられるようになった、という説もあるそうです。準備をしていざ食べ始めると、ところてんに関しては昔のお祭りの出店を思い出される方や、突き棒を懐かしむ方がたくさんいました。とうもろこしに関しては「甘くて美味しい!!」と言う言葉を沢山いただきました。また定期的に皆様に喜んでいただけるようなおやつレクを開催したいと思います。

